Ⅱ－1 教師の表情・話し方

先生、いつも明るい！話がわかりやすい！

教師の表情は、指導力の一部です。

授業の初めに、まず子どもが注目するのは教師の表情です。

教師の表情は、子どもの学ぶ意欲や姿勢に大きな影響を与えます。無表情であったり、気難しい表情やしかめっ面をしていたりでは、子どもたちの学習意欲は高まりません。

- ◆ 授業前に、鏡の前に立って表情を整えてから教室に向かいましょう。
- ◆ 授業中の姿を録画して、自分の表情や話し方を確認しましょう。

言葉に、豊かな表情を添えると、伝えたいことが強調されます。

教師の豊かな表情は、子どもの思考を促したり、意欲を高めたりすることにつながります。

＜例＞

感動
「すばらしい」
「さすが」
「やったね」

ねぎらい
「ありがとうね」
「みんなで感謝」
「お疲れさま」

励まし
「一緒にやろう」
「君ならできる」
「もう一息よ」

身振り、手振りを組み合わせることで、表現が強調されます。

＜例＞

強調！
手のひらを上に向けると、聞き手は伝えたい部分を強調した印象を持ちます。

バッチリ！ＯＫ！
指や両手で輪を作り、○（合格、大丈夫）を表現します。

なぜ？
手をあごにあて、関心を示していることを強調します。

ここがポイント！
指を立てると、伝えたい点をより強調できます。

ねらいに応じた話し方を意識することで、伝わりやすくなります。

○　思いつくまま話すのではなく、話す内容を整理して話す

・　「これは、○○ということですね。なぜかというと・・」と結論を明確にしてから、根拠を話す。
・　「○○からはこう言えるね。つまり・・」と具体でイメージを膨らませてから、結論を示す。
・　「今から三つ、伝えます」と、伝えたいことの数を示す。

○　子どもの言葉やつぶやきを引き出すように話す

先生が一から十まで話してしまっていませんか。子どもは一つの言葉でも発言して、「役に立った」、「答えられた」と感じると嬉しいものです。

（例）先生「えっと、これは・・」とあえてとぼける。　→　子ども「それは、○○です！」
→　先生「あっ、そうでしたね。よく覚えていましたね」と称賛する。

○　あえて小さな声でゆっくり話す

強調したいところをいつも大きな声で話していませんか。あえて小さな声でゆっくり話すことで、子どもが話に集中することもあります。

○　子どもたちの活動を止めさせて話すべきか、止めさせるまでもないか、状況に応じて判断する

実験や話合いなどの活動中の子どもたち全体に向けて先生が話しかける場面を見かけますが、子どもたちの安全を守るために伝えるべきことや活動目的、視点、手順の確認など、全員が共有すべきことは、活動を止めさせてから話しましょう。

聞き手を意識して話していますか？

★　話し方「５つのチェックポイント」

□　声の大きさは、一番遠い子どもにもしっかり聞こえる大きさである。
□　話す速さは、子どもの発達段階にあった聞き取りやすい速さである。
□　子どもの顔を見て、表情や反応を確かめながら話している。
□　「あのー」「えー」などの不要な言葉を使わずに、間を取りながら簡潔に話している。
□　身振りや手振りを交えて話している。

話し手を意識して聞いていますか？

★　聞き方「５つのチェックポイント」

□　子どもの話を最後まで聞こうとしている。
□　聞きながら、その子どもの伝えたいことは何かを再構成しながら聞いている。
□　机間指導の際、腰をかがめるなどして子どもと同じ高さに耳を置いて聞いている。
□　相づちをうったり、表情で関心を示したりしていることが伝わるように聞いている。
□　言葉につまったり間違ったりしていても、子どもの思いを受け止めながら聞いている。

ワンポイント！

子どもは教師の鏡

「子どもは親の鏡」と言われるように、「子どもは教師の鏡」とも言えます。教師が、子どもたちの表情や反応をしっかりと見たり聞いたりしながら授業を進めていると、子どもたちも、教師や友達の表情を見ながら話したり、意見をしっかり聞いたりする態度が育っていきます。